

## 『文学と環境』投稿における引用・参照と引用文献の書式について

会誌編集委員会

### 1. 本文における引用・参照、注

- (1) 「引用文または引用語句」を含む文または節の末尾に、当該著者および著作等のページ数をカッコ書きする、その場合、カッコ書きの位置は句読点（. , または 。 、）の前とする。
- (2) 参照したことを明示する文または節の末尾にカッコ書きする。その方法は、(1)と同様とする。

#### 【例示】

- ・ “The influence of the Third World shops was limited and the market was small” (Nierrenberg 68), [ただし、著者名を事前に明記した場合は(68),]
- ・ Lopez himself has boldly proposed that nature writing might “provide the foundation for a reorganization of American political thought” (*Antaeus* 297).
  
- ・ 「我々の社会の法律は古代からの倫理学のパターンを踏襲しており、…現代社会に十分に対応できていない」(ハーディン 457)。
- ・ 松井の…という指摘は示唆的であるが(松井 234)、

(3) 注は脚注ではなく、論文末に一括して記載する。英文の注の付け方については投稿規程3(2)を参照する。

### 2. 引用文献（「引用・参照文献」、「参考文献」、Works Cited、等の表記も可とする）

- (1) 外国語文献(欧文)・日本語文献の別に記載方法を定める。
- (2) 外国語文献の場合は、言語を問わず、投稿規程3(2)に従う。邦訳も参照した場合は、当該邦訳を続けて記載する。
- (3) 外国語文献と日本語文献を記載する場合は、両者を区分し、外国語文献（著者名アルファベット順）、日本語文献（著者名アイウエオ順）の順とする。
- (4) Website については、著者名、タイトル、サイト名、アクセス日付、<URL>の順に記載する。

## 【例示】

### 著書

- ・ Merchant, Carolyn. *The Death of Nature: Woman, Ecology, and the Scientific Revolution*. New York: Harper, 1989.
- ・ Shrader-Frechette, K.S., ed. *Environmental Ethics*. Pacific Grove: Boxwood P, 1981.  
京都生命倫理研究会訳『環境の倫理』全2巻、晃洋書房、1993年。
- ・ 熊谷達也『マイ・ホームタウン』小学館、2003年。
- ・ リチャード・メイビー、梅田智世訳『イースト・アングリアへ』ヴィレッジブックス、2007年。

### 論文（雑誌・共著等に収録）

- ・ Holland, Alan. "Sustainability." *A Companion to Environmental Philosophy*. Ed. Dale Jamieson. Oxford: Blackwell, 2001. 390-401.
- ・ 出久根達郎「菊の隠密」『宮沢賢治』第16号、14-17頁、洋々社、2001年。

## 3. その他

- ・ 出版社への入稿時は、必ず執筆者本人がデータだけでなく、プリントアウトした元原稿を出版社に提出する。

## 4. 書式の扱いについて

- (1) この書式は、会誌第18号（2015年度）より適用する。
- (2) この書式は、本学会2014年度内規とし、第18号以後の会誌に掲載する。

以 上